



つよい子

令和7年度 学校だより

第11号

余市町立大川小学校

令和8年1月30日

- 【令和7年度 重点目標】
- ◎ 『伝わること』を意識して生き生きと表現する子の育成
 - ◎ 思いやりの心を持ち ルールとマナーを守る子の育成

雪に鍛え、心に「ひとしずく」の灯を

校長 大山 敏広

- ◆ 暦の上では間もなく立春を迎えますが、大雪に見舞われ、厳しい冬が続いています。先日の暴風雪に伴う下校時間の繰り上げの際には、急な連絡にもかかわらず、柔軟に対応いただきありがとうございました。急激な天候の悪化により、学校の連絡や対応が追いつかない点もありました。申し訳ありませんでした。
- ◆ P T Aボランティアの方には、腕章をつけ、気温の低い中でも子どもたちの登下校を見守っていただいております。また、スキー学習のサポーターとしての学習支援にも、複数の方から申し込みをいただいております。こうした地域の皆様・保護者の皆様の温かさに支えられ、本校の教育活動が成り立っていることを改めて実感しております。
- ◆ さて、このような厳しい寒さの中にあっても、学校には寒さを吹き飛ばすような心温まる光景があります。児童玄関では、登校してきた子どもたちが互いの背中やかばんの雪を払い合う姿がありました。また、道路を横断する際、止まってくれた車に対し、深々と、あるいは少し照れながらも軽く会釈をして通り過ぎる子どもたちの姿。誰に言われるでもなく、相手を思いやり、感謝を形にするその姿をたいへん微笑ましく、そして誇らしく見つめております。

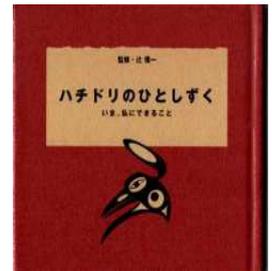
- ◆ 3学期の始業式で紹介したお話です。

ハチドリの一しずく

森が燃えていました
 森の生きものたちは われ先にと逃げていきました
 でも クリキンディという名のハチドリだけは
 いったりきたり
 くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
 火の上に落としていきます
 動物たちがそれを見て
 「そんなことをしていったい何になるんだ」
 といって笑います
 クリキンディは こう答えました
 「私は、私にできることをしているだけ」

(出典:「ハチドリの一しずく」辻信一監修 光文社刊 2005年)

- ◆ これは、南アメリカの先住民に伝わるお話だそうです。この通り短いお話ですが、考えさせられるメッセージが込められているように感じます。監修した辻信一さんは、解説の中でこのように問いかけています。



さて、燃えていたあの森はその後、どうなったでしょう。森は燃えてなくなってしまったのでしょうか。それとも…
 『物語の続きを書くのはあなたです。』

- ◆ 玄関での雪払いも、ドライバーさんへの会釈も、まさに自分にできる小さな「ひとしずく」の行動です。ただこの小さな「ひとしずく」の行動は、大雪や厳しい寒さに弱音を吐きたくなくなるこの季節の中で、『心を温める灯』であることに違いないと感じます。

- ◆ 大川小学校の「校章」には、美しい雪の結晶がデザインされています。校歌の2番にも「鍛える雪の校章に」という歌詞がある通り、大雪に負けず、心と身体をたくましく鍛えてほしいという願いが込められています。厳しい冬があるからこそ、春の訪れを喜び、他者への優しさや心身の強さを育むことができる…そう考えると目の前にある雪は、私たちを強く、優しく成長させるための試練であるのかもかもしれません。

- ◆ 今年度の登校日も残りわずかとなってまいりました。自分にできる「ひとしずく」の努力を着実に、粘り強く積み重ね、新しい学年につなげることができるように励まし、サポートしていきたいと考えております。子どもたちの未来を保障するため、引き続き大川小学校の教育活動に御理解と御協力をよろしく願いいたします。厳しい冬を乗り越えた先にある春を楽しみに、雪解けの季節まで、共に助け合って過ごせればと思います。皆さま、どうぞくれぐれも御自愛ください。

